
災害時のトイレ使用に関する管理マニュアルとアクションカードの作成

(辻本博明、日本集団災害医学会誌 19:26-32, 2014)

2016年5月20日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

災害時におけるトイレ管理対策に問題があった場合、感染症や精神的ストレスを被る可能性があり、「排泄とは人間にとって本能としての基本的欲求である」と Abraham Harold Maslow が述べているように、災害時には最優先されるべき案件である。

本文献は、災害時の患者及び職員のトイレ環境を維持するために、平成 23 年度において災害時のトイレ使用に関する管理のマニュアル、管理担当者が行う指標となるべきアクションカードを安心・安全・安楽・安価・在庫管理が容易である、という視点で検討し、作成することができたと述べている。

具体的にマニュアル及びアクションカードを作成する方法として、1)トイレの設置場所の検討、2)使用する物品の検討を行った。

トイレの設置場所の検討としては、既存のトイレ空間、病院室内、病室などの空間、病院敷地内、病院室外の駐車場について、安全、安楽、安心の視点から比較し、2)使用する物品の検討としては、災害用トイレ、災害トイレ物品、ナイロン袋について安価、在庫管理が容易である、安全などの特徴について比較した。

その結果、1)トイレの設置場所の検討としては、既存のトイレ空間は安全、安心、安楽であり、プライバシーも確保されており最も適当である、と考えられた。一方、病院室内、病室などをトイレ空間として使用する場合は、設置時間が約 30 分～1 時間かかることやプライバシーの確保ができるかどうかについての確認が必要であることを考慮しなければならない。また、室外の駐車場を使用する場合は、仮設トイレの設置を待つ必要があること、安心、安全、安楽面は他の 2 項目より劣ることが分かった。また、2)使用する物品の検討としては、災害用トイレは設置費用が院内の 1 フロアで 340 万円かかることに加えランニングコストも発生するため不採用となった。その他、保管場所が必要であることや故障の可能性があることも懸念材料である。また、災害トイレ物品は、コスト面では災害用トイレに比べ低価である一方、衛生面や管理面ではリスクがあることが分かった。ナイロン袋は、最も安価で保管しやすいが、感染対策を行うことが必須である。以上により、院内のトイレ空間と既存のトイレ便座を使用し、物品としてはナイロン袋を使用することが決定した。

次に、トイレ管理体制について、指示・伝達・実施・調整などを決定した。東日本大震災においてトイレを清潔に管理することが困難であるという体験談のもと、使用するトイレ数の制限が管理を容易にすると考えられ、当院では病棟の患者、スタッフ計 60 人に対して 5 基のトイレを確保できた。また、トイレ管理担当を被災直後に 2 名以上選出し、各ブロックのトイレ担当者にトイレ管理の指示・伝達・調整をする。このトイレ関連の指示・伝達・調整方法を決定しておくことで、適切な管理ができると考えられる。そのために、トイレ管理のアクションカードの記録用紙は各フロアに配備され、トイレ管理担当が持ち出しすぐ使用できるように準備した。

また、トイレ使用方法を簡潔にすることを努力すると共に、どの職種でも利用できることを目標にアクションカードを行動レベルで作成した。一方で、トイレ使用における感染対策が不十分であることから、今後感染対策、衛生的な汚物処理について検討していく。

以上のように、災害時における病院でのトイレ管理は被災者（患者）、職員双方の生活に非常に大きな影響を与える。被災後の混乱を防ぐため、あらかじめトイレ設置場所や使用物品を検討し、マニュアル、アクションカードを作成し、災害対策本部設置後には各フロアのトイレ担当者を配置することが必要である。今後はトイレ関連の備蓄方法の確立と感染面の対策について検討する。